

呼吸器外科【Stage2】

1. 実習の基本方針（目的・到達目標）

1) 目的

呼吸器外科では、呼吸器および縦隔疾患の診断から治療まで一貫した診療を行っている。この中で、外科的基礎知識と基本手技を習得するとともに、胸部の急性期疾患およびがん診療の基礎を身につける。

呼吸器外科の中で大きな比重を占める悪性腫瘍、特に原発性肺癌はがん死亡原因の第1位であり、その克服は最重要課題である。このような悪性疾患にどのように取り組んでゆくかを実地医療に参加することで学ぶ。胸部手術に関して、低侵襲手術（胸腔鏡下手術）から拡大手術（他臓器合併切除）まで、幅広い症例を指導医のもとで経験する。

2) 到達目標

- a. 呼吸器・縦隔疾患および胸部腫瘍・がんの基本的病態を理解する。
- b. 胸部の外科的解剖と手術方法を理解する。
- c. 胸部診察を身につけ、必要な鑑別診断を行う。
- d. 外科治療の適応、術式の検討、周術期の病態生理を理解する。
- e. 基本的外科手技（手術器械の使用・縫合など）を習得し、胸部外科の基本手技（胸腔ドレナージなど）を理解する。
- f. 胸部 CT、FDG-PET 検査呼吸機能検査、気管支鏡検査などを理解し、病状を把握できるようになる。
- g. がんの分子生物学・遺伝学を理解し、胸部がんに対する腫瘍学的思考を身につける。
- h. 胸部がんに対する最新の薬物療法（抗がん剤・分子標的薬・免疫治療）および集学的治療を理解する。
- i. 胸腔鏡手術、ナビゲーションなど最新外科診療の知識や技術を学ぶ。
- j. 患者・家族とのコミュニケーションの取り方、信頼関係の構築について学ぶ。
- k. 医療スタッフ、他職種との連携について学ぶ。

2. 実習の方法（内容・行動指針）

- 1) 診療チームの一員（指導医－担当医－研修医－実習学生）として、症例を受け持ち、検査結果から手術適応、治療方針を判断する。
- 2) 手術では指導医の指導、監視のもとで、縫合・結紮の実技を行う。術後は創処置にも立ち会い、担当症例の手術前後での一連の診療経過を把握する。また症例検討会（カンサーボード、各種カンファレンス）では症例提示、手術報告などを行う。
- 3) Wet lab（ブタの心肺を利用した手術手技実習）を行い、実際の手術に近い環境で手術の流れや手技を実践する。

3. 実習上での注意事項

- 1) 時間を厳守し、挨拶をする。
- 2) 身なりを整える。清潔な服装および白衣、適した靴を着用し患者に不快感を与えないようにする。
- 3) 患者（家族）には礼儀正しく、真摯な態度で臨む。
- 4) 個人情報の取り扱いには細心の注意を払う。

4. 医学生の臨床実習における医行為と水準

1) レベルⅠ：指導医の指導・監視の下で実施されるべき

問診、全身の診察、バイタルサインチェック、手術助手、抜糸を含めた創処置。

縫合・結紮手技。皮内、皮下、筋肉、静脈（末梢）注射。

2) レベルⅡ：指導医の実施の介助・見学が推奨される

胸腔内操作の助手、胸腔ドレーン挿入。患者、家族への病状説明。気管支鏡検査。

呼吸器外科

[スケジュール]（第1～4週目）

曜日	担当教員	午前		午後
月	小副川・原武・安部・野田	入院患者カンファレンス、グループ回診、手術		手術、病棟実習 ミニレクチャー カンサーボード（隔週）
火	小副川・原武・安部・野田	術後報告、術前症例提示、グループ回診	自主学習	
水	小副川・原武・安部・野田	症例カンファレンス、グループ回診、手術		手術、病棟実習 ミニレクチャー
木	小副川・原武・安部・野田	術後報告、術前カンファレンス、教授（科長）回診	自主学習	
金	小副川・原武・安部・野田	症例カンファレンス、グループ回診、手術 ※実習総括、教授試問		病棟実習 ミニレクチャー ※実習総括、教授試問

集合時間（月火水金）：8時00分（木）：7時45分

集合場所：研究棟6階 ゲノム医療研究室

※第4週目（午前～午後）

乳腺外科【Stage2】

1. 実習の基本方針（目的・到達目標）

乳腺外科は、乳腺の悪性および良性疾患の診断から治療まで一貫した診療を行っており、その中で外科の位置づけを学び、知識と基本的技術の習得を目的とする。乳腺外科の中で大きな比重を占める乳癌は、わが国の女性における悪性新生物でその罹患率が10年以上第1位となっており、その克服は最重要課題である。このような疾患にどのように取り組んでゆくかを実地医療に参加することで学ぶ。

一般目標

- 1) 乳腺疾患の基本的病態を把握し、外科的解剖と診断、外科治療の適応、術式の検討、周術期の病態生理を理解する。
- 2) センチネルリンパ節生検、ステレオガイド下マンモトーム、乳房温存療法などの最新の医療についての知識や技術を学ぶ。
- 3) 患者・家族とのコミュニケーションの取り方、信頼関係の構築について学ぶ。
- 4) 医療スタッフ、他職種との連携について学ぶ。

2. 実習の方法（内容・行動指針）

- 1) 診療チームの一員（指導医－担当医－研修医－実習学生）として、症例を受け持ち、検査結果から手術適応、治療方針を判断する。
- 2) 手術では指導医の指導、監視のもとで、縫合・結紮の実技を行う。術後は創処置にも立ち会い、担当症例の手術前後での一連の診療経過を把握する。

3. 実習上での注意事項

- 1) 時間厳守。
- 2) 挨拶をする。
- 3) 身なりを整える。適した靴、清潔な服装および白衣を着用し患者に不快感を与えないようにする。
- 4) 患者（家族）には礼儀正しく、真摯な態度で臨む。
- 5) 個人情報の取り扱いには細心の注意を払う。

4. 医学生の臨床実習における医行為と水準

- 1) レベルⅠ：指導医の指導・監視の下で実施されるべき
問診、全身の診察、バイタルサインチェック、手術助手、抜糸を含めた創処置。
縫合・結紮手技。手術の助手。
- 2) レベルⅡ：指導医の実施の介助・見学が推奨される
患者、家族への病状説明。組織生検。乳房US。マンモグラフィ読影。
センチネルリンフォシンチグラフィー。

乳腺外科（呼吸器外科と一部重複しています。）

[スケジュール]（第 1～4 週目）

曜日	担当教員	午前		午後
月	小副川 内匠	入院患者カンファレンス、グループ回診、手術		病棟実習、ミニレクチャー、呼吸器がんサードボード（隔週）
火	小副川 内匠	術後報告、術前症例提示、グループ回診	自主学習	
水	小副川 内匠	症例カンファレンス、グループ回診、手術		手術、病棟実習 ミニレクチャー
木	小副川 内匠	術後報告、術前カンファレンス、教授（科長）回診	自主学習	
金	小副川 内匠	症例カンファレンス、グループ回診、手術	※実習総括、教授試問	

集合時間（月火水金）：8 時 00 分（木）：7 時 45 分

集合場所：研究棟 6 階 ゲノム医療研究室

※第 4 週目（午前～午後）